

安 全 デ ー タ シ ー ト

Safety Data Sheet

According to JIS Z 7253:2012

改訂 2016年10月05日 第3版

発行日 2018年02月15日

1. 化学品及び会社情報

製 品 名 マイトスケーラ液 中和剤
(T W)

製造者 株式会社 日本科学エンジニアリング
〒564-0044 大阪府吹田市南金田 1-4-35
電話 06-6385-5637 FAX 06-6389-1841 URL <http://www.jse.ne.jp>

緊急連絡電話番号 電話 06-6385-5637 株式会社 日本科学エンジニアリング 技術部

供給者 マイト工業株式会社
〒547-0001 大阪府大阪市平野区加美北 4-5-6
電話 06-6793-8531 FAX 06-6793-4422 URL <http://www.might-jp.com/>

推奨用途及び使用上の制限 弱酸性タイプスケーラ液の中和としてのみ使用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体 自然発火性液体	分類対象外 区分外
健康に対する有害性	自己発熱性化学品	区分外
	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入・気体)	分類できない
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入・ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性/刺激性	分類できない
環境に対する有害性	生殖細胞変異原生	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	分類できない
	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境性有害性 (急性)	分類できない
	水生環境性有害性 (長期間)	分類できない
	オゾン層への有害性	区分外

※記載が無い危険有害性は「区分外」「分類対象外」「分類できない」である。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	飲み込むと有害 軽度の皮膚刺激 強い眼刺激
注意書き	安全対策 全ての安全注意をよく読み、理解するまで取り扱わない事 保護手袋/保護眼鏡/保護面を使用する事 ミスト/蒸気を吸わない事 屋外または換気の良いところでのみ使用する事 取り扱い後は洗顔し、よく手を洗う事 環境への放出を避ける事 応急措置 吸入及び飲み込みなどにより気分が悪い時は早急に新鮮な空気のある場所へ移動させ 医師の診断、手当てを受ける事 廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に業務委託する事

3. 組成及び成分情報

純物質もしくは混合物 混合物

標準組成及び成分

化学名	濃度(wt%)	CAS No.
無機炭酸塩	5.0	非公開
エタノール	10.0	64-17-5
pH 指示薬	< 0.1	非公開
蒸留水	85.0	7732-18-5
化学物質排出把握管理促進法 毒物劇物取締法		非該当 非該当
(2016年6月1日施行) 労働安全衛生法第57条 表示対象物質 エタノール(政令番号 61)		
労働安全衛生法第57条の2 通知対象物質 エタノール(政令番号 61)		

4.応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。呼吸がとまっている場合及び呼吸が弱い場合には衣類を緩め呼吸と気道を確保したうえで人工呼吸を行う。体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。直ちに医療手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨てる。触れた部分を水で洗い落した後、石鹼を使用しよく洗い落す。
- 目に入った場合 : 清浄な水で最低 15 分間以上洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医療手当てを受ける。口の中が汚染している場合は、水で十分に洗うこと。無理に吐かせない。被災者に意識のない時は、口から何も与えてはならない。

5.火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末消火剤、散水、泡消火剤、乾燥砂類
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水
- 特有の危険有害性 : 火災中に刺激性、有害性のガスを発生する可能性がある。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業は風上から行い空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.漏出時の措置

- 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。
- 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
- 漏洩エリアに立ち入る場合は保護具を着用する。
- 下水等に入らないように注意する。
- 漏洩液はウエス、砂などに吸収させて処理する。

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用。

局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取り扱い注意事項

取り扱う設備のある場所を常に整理整頓する。

屋内外、または換気の良い場所で作業を行い

接触、吸入又は飲み込まないこと。

目、皮膚に触れないよう必ず保護眼鏡、保護手袋を装着する。

取り扱い後は、手洗いを十分に行い、作業着等に付着した場合は着替える。

容器から出し入れする場合は、こぼれないようにする。

保管

技術的対策

容器はみだりに転倒、落下、または引きずる等の粗暴な取り扱いをしない。

混触危険物質

「10. 安定性及び反応性」を参照

保管条件

保管の際には直射日光を避け、換気のよい場所に置き、高温物を近づけない。

容器は密栓して、良好な冷所に一定の場所を決め、保管する。
保管包装材料
データなし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値）

日本産業衛生学会(2015年版)：設定されていない

ACGIH(2015年版)：設定されていない

設備対策

取り扱い場所の近くに、緊急時の着眼、身体洗浄を行う設備を設置する。

ヒューム、ミスト、ガスなど空気汚染物質濃度を下げるために風上で作業するか

排気装置を設置する。

手の保護具

適切な保護手袋を着用する。

眼の保護

適切な保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用する。

9. 物理的および化学的性質

外観	:	藍色液体
比重（15℃）	:	1.03
溶解性水）	:	易溶
引火点	:	なし
発火点	:	なし
爆発限界	:	なし
可燃性	:	なし
自己爆発性	:	なし
pH	:	12.0（アルカリ性）

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取り扱い条件下では安定
危険有害反応可能性	強酸と反応すると二酸化炭素を発生する
避けるべき条件	強酸、日光、熱
混触危険物質	強酸の接触
危険性有害分解生成物	加熱分解時の一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	経口	区分外
	経皮	区分外
	吸入	データなしのため分類できない
皮膚腐食性・刺激性		データ不足のため分類できない
眼に対する重篤な損傷・刺激性		データ不足のため分類できない
呼吸器官作性又は皮膚感作性		データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない
発がん性		データ不足のため分類できない
生殖毒性		データ不足のため分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない
吸引性呼吸器有害性	データ不足のため分類できない

12.環境影響情報

混合物としての情報	
水生環境急性有害性	データ不足により分類できない
水生環境慢性有害性	データ不足により分類できないが生体蓄積性は低い
オゾン層への有害性	区分外

13.廃棄上の注意

知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体の廃棄処理施設等に委託して処理を行う。
 可能な限り無害化、安定化及び中和処理を行って危険性有害性レベルを下げる
 投棄を禁止する。
 空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去する事。

14.輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	IMO の指示に従う
	航空規制情報	ICAO/IATA の規制に従う
	UN No.(国連番号) :	— (なし)
	Proper Shipping Name (品名) :	—
	Class(クラス) :	—
	Packing Group(容器等級) :	—
国内規制	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う
	航空規制情報	航空法の規定に従う
	陸上規制情報	該当しない

15.適用法令

混合物としての情報	
消防法	非該当
労働安全衛生法	労働安全衛生法第 57 条 表示対象物質 エタノール(政令番号 61) 労働安全衛生法第 57 条の 2 通知対象物質 エタノール(政令番号 61)
危険物	非該当
特化則	第一種物質 非該当 第二種物質 非該当 第三種物質 非該当
有機則	第一種有機溶剤 非該当 第二種有機溶剤 非該当 第三種有機溶剤 非該当
毒物及び劇物取締法	
特定毒物	非該当
毒物	非該当
劇物	非該当

化学物質排出把握管理促進法	
特定第一種指定化学物質	非該当
第一種指定化学物質	非該当
第二種指定化学物質	非該当
火薬類取締法	非該当
航空法	非危険物
船舶安全法	非危険物
水質汚濁防止法	生活環境項目（施行令第三条第一項） 「水素イオン濃度」 〔排水基準〕 ・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8 以上 8.6 以下 ・海域に排出されるもの 5.0 以上 9.0 以下
輸出貿易管理令	キャッチオール規制 別表第 1, 16 項 第 28 類無機化学品 HS コード（輸出統計品目番号、2013 年 3 月版） 2809.20-000

16.その他の情報

参考文献

GHS 分類結果データベース nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
 化学物質の危険・有害性便覧 労働安全衛生部監修
 化学大辞典 共同出版
 安衛法化学物質 化学工業日報社
 JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の有害性情報の伝達方法—ラベル・作業場内の表示及び安全データシート (SDS)」
 化学物質安全データブック オーム社
 産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版

このデータは作成の時点における知見によるものですが必ずしも十分ではありませんし、
 何等保障をするものではありませんので、取り扱いには十分注意して下さい。